

「組織等の概要、取組の特徴」及び「意見・要望」

ふりがな 法人名	かぶしがいいしゃ いとうでいりー 株式会社伊藤デイリー
ふりがな 氏名（肩書き）	いとう かずひろ 伊藤 和宏（代表取締役）
所在地	北海道阿寒郡鶴居村字雪裡北 2 7 線西 3 2 番地
経営の概要	酪農業 フリーストール牛舎 ミルキングパーラー方式 飼養頭数 成牛 650 頭 育成牛 450 頭 計 1,100 頭 経営耕地 採草地 290ha デントコーン 85ha 組織構成 役員 3 名 正社員 16 名 パート 2 名 フィリピンからの技能実習生 7 名（女性） インドネシアからの派遣事業 1 名（男性）
取組の特徴	○良質な牧草、デントコーンの栽培管理、サイレージ製造を基本に忠実に実践、飼料の配合を自ら工夫し牛が喜ぶエサづくりに取り組んでいる。 ○2012 年（平成 24 年）フリーストール牛舎＋ミルキングパーラーの強みを生かして 1 日 3 回搾乳を開始、搾乳牛のストレスを極力軽減することに成功。 ○2019 年（平成 31 年）環境負荷軽減と酪農の持続性を考えてバイオガスプラントを導入、メタンガス発電や消化液等の活用に取り組む。
今後の展開	酪農を主体とした乳肉複合経営体として離農した農家の農地の有効活用や規模拡大による雇用の創出など地域を牽引する企業をめざしていきます。
意見・要望	労働人口が減少して行く中で畜産業界は、ますます人手不足が進む事が予想されています。求人にかかるコストや時間も増えています。技能実習生にかかるコストも非常に多くなっています。雇用に関する事業は「雇用就農資金」がありますが、金額と労力が合わないと感じます。他産業に負けない賃金を支払うことが畜産業界の労働人口の増員に繋がると考えています。使いやすい事業をお願いします。

「組織等の概要、取組の特徴」及び「意見・要望」

法人名	かぶしきがいしゃ だいちのめぐみ 株式会社 大地の MEGUMI
氏名（肩書き）	あかいし まさし 赤石 昌志 （代表取締役社長）
所在地	北海道網走郡大空町女満別日進 306 番地 4
経営の概要	経営面積：6.5ha（有機南瓜：3.5ha、子実コーン：1.4ha、馬鈴薯：1.1ha） 契約栽培面積 40.6ha：（有機南瓜：28ha、有機子実コーン：5ha、馬鈴薯：6ha アスパラ：1.6ha） 従業員数：5名（うち正社員2名、非常勤3名）
取組の特徴	○ 北海道という広大な土地条件を活用した大規模有機農業を展開 ○ 直営農場、役員農場、契約農場という3段階の生産圃場を運営管理し全国に有機栽培農産物及び有機栽培加工品を販売 ○ 有機農業と食育をマッチング ○ 有機農業技術講習会、研修会を独自開催し生産者の確保、販路の拡大等を図る。 ○ 新しい取り組みとして有機飼料（子実トウモロコシ）の栽培を開始して販売品目の拡大、有機圃場の輪作体系の増強を図る。
今後の展開	○ ますます需要が増加傾向にある有機農産物の栽培面積の拡大を図る。 ○ 学校給食 医療関係の食材として有機農産物の利用拡大を図る。 ○ 輸出も視野に入れた加工品の開発（常温保存商品）
意見・要望	○ 現在北海道農業の実情は経営規模拡大のみに向かっており実はこのことが農業者人口の減少という大きな問題を生み出している。当然後継者問題や経営内容の悪化（気候変動による減収、生産原価の高騰等）高齢化などが主な要因であるがこのことが起因となり地域の崩壊、就農意欲の低下、相互扶助意識の消失等を生み出している。今後政策に求めることは農家戸数や農業従事者数の減少を軽減することに配慮した施策を実施していただきたい。 具体的には IT の活用による営農年齢の延長 第三者継承の推進、離農を対象としない集団化、さらには受け入れる側のスキルアップにつながるような講習会等の開催などを取り入れた基本計画になっていただけるとありがたい。

「組織等の概要、取組の特徴」及び「意見・要望」

ふりがな 法人名	ふたみせいかかぶしきがいしゃ
	ふたみ青果株式会社
ふりがな 氏名（肩書き）	まつもと まさと
	松本 政人（代表取締役社長）
所在地	北海道釧路市新富士町６丁目１番２３号
経営の概要	青果仲卸業がメインで量販店に納品しております。付随してパッケージ、レトルト加工。フリーズドライ加工、外食産業への納品、丹頂市場ぐるめ館での小売業など。系列会社の水産卸、水産加工もあります。
取組の特徴	ここ近年では、メロン、ながいもなどの青果物や牛乳のフリーズドライの輸出、ＪＡとの協力による青果物を上から下まで広い範囲で取り扱うことで価格の変動を抑えて安定させる。
今後の展開	輸出強化、ＪＡとの取り組み拡大、販売価格の向上
意見・要望	輸出環境の見直し 最低生産価格の提示や数量調整ガイドライン設定

「組織等の概要、取組の特徴」及び「意見・要望」

ふりがな	なかさつないしょうひしゃきょうかい
法人名	中札内消費者協会
ふりがな	なかざわ さいこ
氏名（肩書き）	仲沢 才子 （会長）
所在地	北海道河西郡中札内村東 1 条南 1 丁目 1 中札内村役場内
経営の概要	昭和 56 年 6 月設立 平成 19 年度 消費生活相談窓口の開設 平成 21 年より会長 会員 50 名 食の安全・安心と地産地消の推進 消費者へ啓発活動と情報提供 人口 4,000 人弱の日高山脈の麓にある自然豊かな農業が盛んな花と緑のアートの村です。
取組の特徴	・消費生活相談室の開設（週 2 回 月、木曜日） ・食の安全・安心と地産地消の取組として、 地場産の大豆、麴を使った味噌作り講習会、牛乳・乳製品の料理講習会、道産米のお米料理講習会 ・消費者啓発活動と情報提供（毎年） 広報誌配布時に啓発パンフレットを全村民に配布 20 歳を祝う会参加者に啓発パンフレット配布 高等養護学校、各小学校へ啓発パンフレットを配布 広報誌内に消費生活情報を掲載（年 4 回） 毎月、民生委員を通して「見守り新鮮情報」を独居老人へ配布 特殊詐欺講習会（出前授業）～中学 3 年生、高齢者大学、行政区、年金友の会等の団体へ 施設見学（会員限定）～バイオガスプラント、株式会社ウインクリン等へ実施 十勝消費者大会への参加 消費者啓発パネル展（村文化祭） 学習会～端切れを使ったリース作りやハンドクリーム作り ～弁護士による特殊詐欺防止講習会 リサイクルショップ（社会福祉協議会主催ふれあい祭会場） デジタル活用支援推進事業（年 3 回）～高齢者向けスマホ教室 村の理事者との懇談会 会報の発行 等

今後の展開	少子高齢化により、会員の減少が続いています。会員である特典（施設見学、料理講習会、学習会等）をPRして、会員増強に努めます。 消費生活相談員が不足しています。消費生活相談員を育成するための研修会や資格試験に必要な経費、旅費等を支援して、人材の確保に努めます。 現在行っている事業は今後も継続して行います。 年々、手口が巧妙化する特殊詐欺が多発して、被害が高額になっているため、村民や会員の皆様が被害に遭わないように啓発活動に努めます。 エネルギー価格や物価の高騰は私たち消費者の生活を圧迫していますので、団体として国や道へ書面で要請を行っていきます。
意見・要望	消費者の立場から食の安全・安心の確保が大切だと思います。 北海道の食料は、それぞれの地域に合った多種多様な作物を生産しています。 中札内村は、十勝管内の南西部にあり、中心部の帯広市から南へ28km、とち帯広空港から車で10分、人口約4,000人の村です。 基幹産業は、小麦、てん菜、馬鈴しょ、豆類などの畑作と牛乳、卵、鶏肉、豚肉などの畜産が盛んな農業を中心とする村です。農業粗生産高は、23年度は153億円で過去最高でした。 種馬鈴しょ農家は、作付け・収穫・管理など徹底して行われ、条例等で規制されていることから、管理された安心な種馬鈴しょが作られていると思います。 また、シストセンチュウ等の被害に遭わない様に立ち入りの規制の強化が必要だと思います。花が咲いた時、外国の観光客の方が、写真を写している行為は、気を付けなくてはいけないと思います。 最近、スマート農業が推進されていて、少人数で農作業ができて、効率化が進んでいますが、防風林が伐採されて景観が損なわれていると思います。 景観への配慮も必要だと思います。残せる所は残してほしいと思います。 中札内村は日高山脈からの豊富な水資源のお陰で食品工場が沢山あります。 豆腐工場、チーズ工場、お菓子工場など皆さん、水が美味しいから、中札内村に工場を作ったと言われます。今後も豊かな水資源を守ってほしいと思います。 道内でニセコ町など、土地が外国人に買収されたりしているので、大切な水を守るために、外資に土地を売らないことを考えてほ

	しいです。 電気、ガス、物価、肥料や飼料等の高騰は農業生産者の生活を圧迫しています。 国として何らかの防止策の手立てを講じてほしいです。 J A 青年部、学校と連携して、食の大切さや作物への愛情などを一緒に学ぶ、食の安全・安心の取組は、今後も継続してもらいたいです。
--	---

「組織等の概要、取組の特徴」及び「意見・要望」

ふりがな 法人名	うらほろちょうのうぎょうきょうどうくみあい
	浦幌町農業協同組合
ふりがな 氏名（肩書き）	はやし つねゆき
	林 常 行（代表理事組合長）
所在地	北海道十勝郡浦幌町字新町 15 番地の 1
経営の概要 （令和 5 年度）	・ 設立：昭和 23 年 2 月 20 日 ・ 地区：浦幌町一円 ・ 農用地面積：約 110 km² ・ 組合員数：956 人（内准組合員数 695 人） ・ 農畜産物総取扱高：143 億 1 千 3 百万円 ・ 子会社：浦幌トラック株式会社 浦幌町は十勝東部に位置し、南北に長い地理的特徴から、町以北では内陸型気候に適する畑作（小麦・豆類・馬鈴薯・甜菜・蔬菜）を主とし、以南では冷涼な海岸性気候を活かした酪農地帯となっており、近年は和牛生産にも力点を置いた農業を展開している。
取組の特徴	耕種部門では、基幹品目の安定生産を最優先事項とし、適正輪作の励行、圃場透排水性及び土壌物理性・化学性の改善により、地力の維持増進と農地基盤整備の充実に努め品質・反収向上に取り組んでいる。また、不足する労働力を補完するために受託作業力強化と併せて人材派遣との連携、スマート農業拡充により労働環境の効率化を進めている。 畜種部門では、各経営体の持続性を担保するために経営基盤体質強化対策として、各種奨励策の実施と万全の家畜防疫・衛生対策を実施している。酪農においては特に高品質生乳生産体制の構築、コントラクターの充実や酪農ヘルパー要員充足により生乳の安定生産を支えている。肉牛においては、優良繁殖雌牛群の整備を柱とし、「うらほろ和牛」ブランドを推進し販売頭数の維持・拡大を図っている。
今後の展開	恒久的な財務の健全化と組合員の営農・生活の資質向上を以って本町農業の振興と総合事業展開推進により、広く地域住民の社会インフラを支えながら「豊かで魅力ある農村構築」の実現に向け組合運営に邁進する。
意見・要望	別紙一食料・農業・農村政策審議会企画部会地方意見交換会資料